



# 桃五だより



No.591

(9月号)

2020.8.25

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

## 心の距離は近づける

校長 川田 忠

体育科のボール運動やゲーム領域の学習では、チームを作って学んでいきます。一人一人がゲームを通して運動の楽しさを味わうようにしていきますが、これらの学習ではチームの凝集性、まとまりの様子がとても重要になります。

チームのまとまりは、いろいろな場面で見取れます。中でもわかりやすいのは、話し合いの時です。チームのめあてを考えたり、ゲームの振り返りをしたりする場面で、車座を作って話し合う様子からそのチームがまとまっているかがわかります。

まとまりのあるチームの車座は、小さくなります。頭と頭をくっつけるほど近づけて話し合うチームは、互いの人間関係、学習への本気度などが推し量れるだけでなく、そのチームに所属する子供たちの学習満足度も大変高くなっています。子供たちは、仲間と親密に関わり夢中になって学びを深めているとき、前のめりになり体も心も距離を小さくしていく姿があります。

この様子は、体育におけるチーム学習の場面だけではありません。教室での話し合いでも、理科室での実験観察でも、学校生活の様々な場面で仲間との関わり合いが良好に進んでいるときには子供同士の距離は近づきます。

学校では、仲間と深く関わり合う子供たちを育てたいと考えています。意図的・計画的に関わり合う場を設定し、いろいろな人と学習や生活を共にするように仕向けます。そこに、学校としての価値があると考えているからです。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、ソーシャルディスタンスが求められています。現状では、感染を防ぐことに力を入れることが優先です。教室の話し合いの場面では、机と机の距離をとって話し合いをし、給食では対面で会話しながら食べるのではなく、個別の机で全員が黒板に向かって食べるようにしています。

体と体の距離を取って密を避け、学校発のクラスターを出さないように今は対応に努めています。しかし、集団生活を通して子供を育てる学校において、いつまでも離れたままでの活動を続けていくことが良いとは思いません。子供の成長を中心に考えれば、本来の生活に戻していく日が来なければならないと考えています。

2学期が始まります。特別な夏を終えて、特別な秋、冬を迎えることとなります。体の距離は離れていますが、子供同士であったり、子供と教員の関係であったり、子供たちを取り巻く保護者や地域の皆さんとの関わりにおいて、心の距離は近くでありたいと思っています。ソーシャルディスタンスという新しい生活様式をしながらも、気持ちのつながりを大切にしたい学校生活としていかななくてはと思います。心の中では、体をくっつける車座の一員となり、肩を組む円陣に加わり、手をつないで互いのぬくもりを感じている毎日を創っていく。そんな桃五小の2学期にしていきたいと考えています。

子供たちの成長を願い、人と人が健全に関わり合う場を大事にした学校生活のために、今学期もご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

### 8・9月の生活指導目標

もも五の子どものやくそくを守ろう

2学期が始まり、桃五小に子供たちの元気な声とともに、学校の規則正しい生活が戻ってきました。夏の疲れが出てきたり、生活リズムが乱れたりして体調を崩しやすくなる時期です。夏に培った力を発揮し、充実した学校生活を送るために、早寝早起きを心がけ、時間や時刻を守って生活していきましょう。